



令和 6 年度

黒石高校 情報デザイン科 実践成果報告

～ 地域共創・未来創造 2024 ～

令和 7 年 3 月時点

【報告内容】

- I 「オリンパス黒石市立図書館コミュニケーションデザインツール開発」(連携団体：黒石市教育委員会)
- II 「『日本ハルマ株式会社』商品開発」(連携団体：日本ハルマ株式会社)
- III 「合同会社前田彌門 温泉マナーアップのための各種デザイン」(連携団体：合同会社前田彌門、黒石市内の温泉)
- IV 「黒石市役所のまちセンターリーフレットデザイン」(連携団体：黒石市)
- V 「企業イメージアップ 広告媒体物のデザイン」(連携団体：日本原燃株式会社・陸上自衛隊弘前駐屯地)
- VI 「黒石高等学校創立 100 周年 PR 用アイテムの制作による地域アピール」
- VII 令和 6 年度「産学官連携による地域デザイン」事業
(連携団体：黒石商工会議所、弘南鉄道株式会社、中南地域県民局地域連携部)
- VIII 令和 6 年度 官学連携企画「ふるさとを、表す。」事業(連携団体：黒石市等、6 市町村自治体の関連部署)
- IX 令和 6 年度 各種依頼事業への対応とその成果(その他の産学・官学連携事例)
 - A 「青森みちのく銀行労働組合シンボルマーク・ロゴタイプの制作」(依頼団体：青森みちのく銀行職員組合)
 - B 「弘前消防エンブレム・被服文字、車両文字デザインの制作」(依頼団体：弘前地区消防事務組合)
 - C 「第 33 回黒石りんご祭りポスター制作」と「イメージキャラクター 宮美あかね の開発」
(関連部署：商工課商工観光部)
 - D 「黒石市制施行 70 周年記念式典ポスターの制作」(関連部署：企画財政部企画課)
 - E 「青森県近代文学館企画展「あおり文学食堂」ポスターの制作」(連携団体：青森県近代文学館)

I

オリンパス黒石市立図書館コミュニケーションデザインツール開発
(連携団体：黒石市教育委員会)

1 概 要

昨年度デザインをした「コミュニケーションボード」のデジタル化と「黒石ほるぷ子ども館」の施設案内リーフレットデザインの刷新、それに昨年度と同様に定期的な図書館のイベントポスター制作を加えた3つの活動を同館との連携のもと行った。

2 事業内容（コミュニケーションボードのデジタルコンテンツ化、黒石ほるぷ子ども館リーフレットのデザイン、黒石ほるぷ子ども館オリジナルマスコットキャラクターの提案）

(1) コミュニケーションボード



昨年度、紙媒体による「コミュニケーションボード」をデザイン。この利便性をさらに高めるためスマートフォンやタブレット端末で利用できるデータにし、利便性向上を狙った。左図の「予約したい」をタップすると本のタイトルを入力するページに移るなど、聴覚に不自由を抱える人でも本を楽に借りられるようになる。

左：デジタル版コミュニケーションボードのトップページ

(2) 「黒石ほるぷ子ども館」施設案内リーフレットのデザイン

同館で来場者に配るリーフレットのデザイン。ポケットに入りやすいサイズにするため、4つ折りのデザインにする。また折りたたむと絵が繋がり、見た目でも楽しんでもらうことができるよう工夫をしている。



左：リーフレット表面 右：リーフレット裏面 ※4つ折りにして配布

(3) 「黒石ほるぷ子ども館」

オリジナルマスコットキャラクターの提案

リーフレットのデザインを依頼されたことから、新しいキャラクターデザインを提案。キャラクターがリーフレットの中に配置されることで、施設への親しみやすさを演出した。



左から順に 「うぱ」 「ぷこ」 「ほるっぴー」

(4) 図書館イベントポスター制作



昨年度に引き続き子ども向けの季節ごとのイベント周知ポスターデザインに取り組んだほか、今年度は大人の利用者向けの製本講座や、黒石市の金平成園でのイベント情報を周知するためのポスターデザインを手掛けた。実際に金平成園を見学させていただき、自分たちで撮影した画像を用いるなど素材集めからこだわって制作に当たった。

1 概要

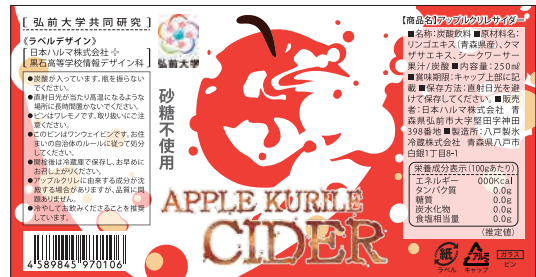
りんごの残滓やササといった、通常ただ廃棄されるものを利活用し、食品や化粧品等の製造を行う日本ハルマ株式会社。新開発商品として「アップルクリレサイダー」を販売するに当たり、その商品ラベルのデザインを請け負う。このほか同社の商品を紹介するパンフレットデザインを依頼され、主にこの2作品を手掛けた。また、商品の完成後は、同社の商品販売を行うイベント補助を行うことで、単なるデザインの学びではなく、自分たちが製造に携わった商品が消費者の手元に届くまでの一連の過程を学ぶ機会となった。

2 事業の様子

（1）「アップルクリレサイダーラベル」デザイン

りんごの残滓とクマザサエキスを混ぜたものにシークワサー果汁を加えたスッキリとした飲み心地のサイダー。味はコーラに近い。思わず手に取ってもらえるデザイン、かつ若者向けのポップなデザインにしたいとの要望を受け制作。

弾けるような爽やかさを出すために泡が飛び散るような絵柄に。このほか、ラベルに掲載すべき情報（バーコード、リサイクルマークや成分表示、共同研究者のロゴ）について制作の中で実践的に学んでいった。

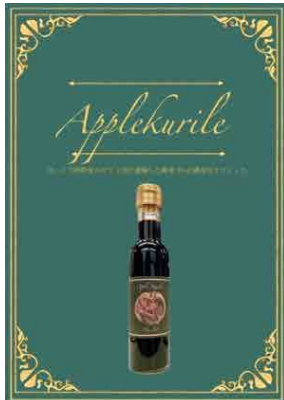


上:採用となった
ラベルデザイン



右:実際の商品

（2）商品パンフレットデザイン



アップルクリレの商品PR用パンフレットのデザイン。結果として実用化には至らなかったものの、商品画像の撮影などもこちらに任せていただいたことで、普段はなかなか経験できない商品の画像撮影に挑戦する貴重な体験になった。

（3）商品販売の補助、ステージでの商品PR

一般的にデザイナーの業務の範囲は、クライアントの要望にしたがって作品を作り、納品するところまでであり、販売はクライアント側で行うものである。しかし自分たちがデザインを考案する過程で頭を悩ませ、苦心して生み出した作品を、自分の手でより多くの消費者のもとに届けることができたらどんなに楽しいことだろう。そこで同社が参加する「津軽の食と産業まつり」での商品販売や、ステージ上での商品PRを手伝わせていただくことで企業理解と商品理解を深めた。（右写真）

事業を始めたばかりの頃は、イラストレーション表現にしか関心を持てなかったが、これら商品流通の一連の流れを体験したことでクライアントの方とのコミュニケーションや一体感の醸成を感じながらデザインをすることの楽しさや魅力に気付いていった。



「合同会社前田彌門 温泉マナーアップのための各種デザイン」 (連携団体：合同会社前田彌門、黒石市内の温泉)

1 概 要

昨年度キャンプ場利用時のマナーアップを呼びかけるためのポスターデザインで連携した合同会社前田彌門との連携事業第二弾として、温泉利用客にマナーを守ることの大切さを伝えるための各種デザインを行った取り組みの紹介である。温泉のマナーを知るために、黒石市内の温泉を訪問し、どのようなマナーで困っているか調査することで各種デザイン作品の質の向上に努めた。残念ながら完成まで漕ぎ着けることが困難となった作品もあるが、温泉業者の中でも宿泊を伴う施設と日帰り温泉、観光客向けか地元民をターゲットとしているかで捉え方にも差異があることを知るなど、深い学びに繋がった。

最後は黒石市長の元を訪れ本事業に関する成果を報告し、これを活動のまとめとした。

2 事業の様子

(1) 各温泉施設でのヒアリング調査

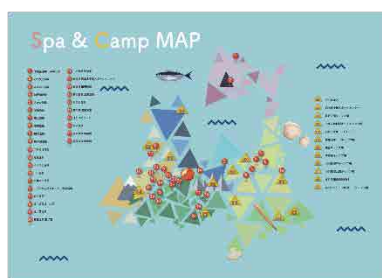
本活動は学校の近隣にある岩木温泉でのヒアリング調査からスタート。今年度制作を検討している3つの作品(ポスター、MAP、ボードゲーム)についてプレゼンテーションを行う。そのうえで実際にどのようなマナーが守られていないかを伺った。このうちポスターについては案ができあがった段階で、岩木温泉のほか、鶴の名湯温湯温泉、山賊館、飯塚旅館、花禅の床、の計4温泉施設を訪問しデザイン、レイアウト、標記すべき言語を決定していった。



▲画像3枚：温泉施設でのヒアリング調査の様子

左：岩木温泉さん(6月) 中央：花禅の庄さん(11月) 右：鶴の名湯温湯温泉さん(11月)

(2) 成果物



左：ポスター※日本語版、英語版、日本語と英語並記版の3パターンを制作
中央上下：MAP (A3サイズ)
※折りたたんで使用
右：ボードゲーム

1 概要

黒石市は、子育て世代を中心に幅広い世代の市民が利用できる場を創出し、まちなかににぎわいをもたらすことを目的とした施設「黒石市役所わのまちセンター」を令和6年10月15日にオープンした。オープンに先立ち、同施設の館内案内用のリーフレットのデザインを本校情報デザイン科が市より依頼を受け、3学年の有志4名で制作に当たった。はじめに4名がそれぞれ1つずつ案を提示し、市に4つの中から1点を選んでもらい、ブラッシュアップしたものを最終的なデザインとして納品した。後に開催されたオープニングセレモニーに招待され4名全員で参加した。

2 成果物

(1) 4つのリーフレットデザイン案



A 案 (左:表紙側 右:内側)



B 案 (左:表紙側 右:内側)



C 案 (左:表紙側 右:内側)



D 案 (左:表紙側 右:内側)



▲最終入稿作品(B案)

(2) オープニングセレモニーへの参加

令和6年10月15日に開催されたオープニングセレモニーの様子。多くの関係者に囲まれる中、表彰式では作品への感想を求められ、パンフレットに込めた思いを参加者の前で堂々と伝えた。

またテープカットにも参加させていただくこととなり、生徒にとってはこの上ない緊張的一幕であったようだ。



▲オープニングセレモニーの様子

「企業イメージアップ 広告媒体物のデザイン」 (連携団体：日本原燃株式会社・陸上自衛隊弘前駐屯地)

1 概 要

今年度ははじめに3学年課題研究の授業で取り扱う内容として、2つの団体よりデザインの依頼を受けた。一つは日本原燃株式会社、もう一つは陸上自衛隊弘前駐屯地。日本原燃株式会社からは社内広報物のデザインの刷新、陸上自衛隊弘前駐屯地からは自衛官募集のポスターの制作。2団体とも、自団体のイメージアップを図るための業務の依頼ということから、二者の依頼を「企業（自衛隊は厳密に言えば企業ではないが）イメージアップ」事業と命名し実践することとした。業務遂行に当たり、団体の普段の取り組みについて知るため、クライアントとの打ち合わせや施設の見学を経て、どのような特色を出すことで団体の良さが民間人に伝わるかを熟考し、デザイン制作を行った。

2 団体との打合せ、施設見学の様子

(1) 打合せ



▲打合せの様子（画像は自衛隊弘前駐屯地とのもの）

(2) 施設訪問

今回の依頼のねらいと照らし合わせることでデザインの方向性をより明確に理解することを主たる目的とし、各団体の平素の業務内容を体験した。また、生徒たち自身が普段団体に対して抱いていたイメージとも重なることで、民間人が団体に対して抱くイメージのズレがどこにあるのかを確認することができた。



▲施設見学で放射線量を測るワークショップを体験する様子
(画像は日本原燃株式会社のもの)

3 成果物



A-1



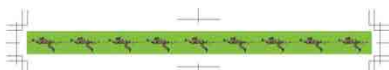
A-2



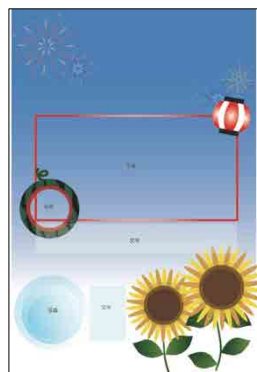
A-3



A-5



A-4



B-1



B-2

▲B. 日本原燃株式会社
B-1: 社内広報デザイン
B-2: 企業 PR 用ポスターデザイン

◀ A. 陸上自衛隊弘前駐屯地
A-1・2 自衛官募集ポスター
A-3～5 生徒が提案した各種ノベルティグッズ
(A-3 タオル、A-4 マスキングテープ、A-5 缶バッジ)

1 概要

来年度（令和7年度）本校は創立100周年を迎える。この創立100周年を生徒の手で地域にPRするには何ができるか、そこで本校創立100周年記念事業の一環としてロゴマーク・ロゴタイプの制作、オリジナルマスコットキャラクターの考案、そして本校生徒の通学を支える弘南鉄道車両へのラッピング及びヘッドマークデザイン制作の3つの事業が実施された。そのうち、2・3年生徒がロゴマーク・ロゴタイプを、3年生徒がキャラクターとラッピング&ヘッドマークデザインを手がけ、それぞれコンペティション形式で採用デザインが決定され、PR活動に活用している。

また、これとは別に2年生は学校をテーマとした「青春ポスター」を制作し、若さ溢れる魅力的な表現で、来るべき100年の節目をPRする作品を制作した。

2 成果物

(1) ロゴマーク・ロゴタイプ

ロゴマークは2種類あるが、本採用となったのが、繋がっていく歴史と成熟する果実をテーマにデザインされた画像・左側のロゴマーク。このほか本校が100周年の後も歩みを続けていく様子をテーマとした画像・右上のものがサブロゴマークとして採用となった。この他にロゴタイプとして、本校の校章にも用いられているひし形をあしらった文字のデザインを採用した。



▲左：本採用ロゴマーク、右：サブロゴマーク

ロゴタイプ ▶ 黒高◇周年

(2) オリジナルマスコットキャラクター

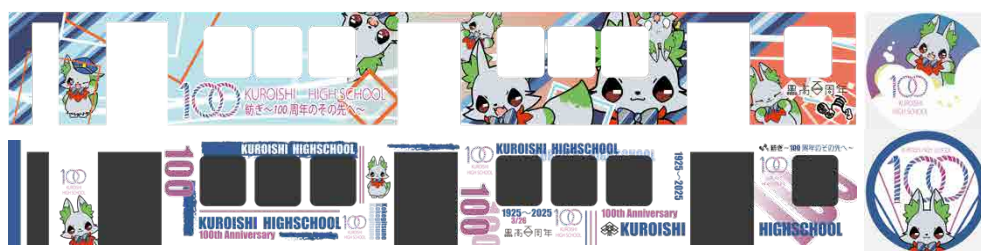


情報デザイン科3学年31名がデザインしたものから8点に絞り、最終的に情報デザイン科3学年を除く本校生徒による投票で決定。キャラクター名は「こけぎつね」。本キャラクターは正式に様々なPRの場面で活用されている。

(3) 車両ラッピング・ヘッドマーク

鉄道車両2両分の側面に施されたラッピングデザイン。いずれも情報デザイン科3学年31名の生徒の案より2案を選考し、2両の先端部にあるヘッドマークも本校生徒によるデザインである。

(下図版)



(4) 青春ポスター「100周年に向かって走り出そう！」

「100周年に向かって走り出そう！」を合言葉に、学校における自分の現在地、または母校の魅力について、「青春」というキーワードと写真で表現した。

右3作品はクラス内投票で票の多かった作品であり、今後のPR活動に活用していきたいと考えているところである。



VII

令和6年度「産学官連携による地域デザイン」事業

(連携団体：黒石商工会議所、弘南鉄道株式会社、中南地域県民局地域連携部)

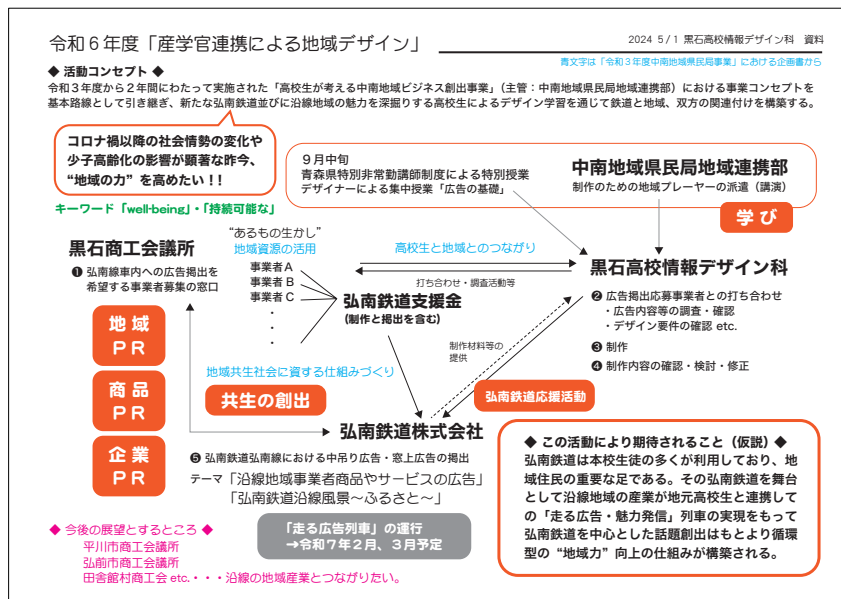
1 概要

本科では令和3年度及び4年度の2年間にわたって、中南地域県民局主導による「高校生と考える中南地域ビジネス創出事業」として「バズる商品開発」に取り組んできた。地域資源と高校生のアイデアの掛け合わせによる弘南鉄道沿線の活性化を目指した事業であったが、昨年度から本科が主体となってその趣旨を継続し、かつ学科の特徴を活かした地域デザイン事業に取り組んでいる。具体的には地元事業者の商品・サービスについての弘南鉄道車両広告を本科2年生徒が制作し、そのことにより生じる広告料を弘南鉄道支援金とする取り組みであり、併せて弘南地域の魅力を発信する「走る広告列車」の実現を目指すものである。結果、24事業者26作品を制作、掲出するとともに、今年度は後段Ⅷで触れる1年生の官学連携事業も加えて「弘南地域魅力発信列車の運行」の実現に向けて取り組んだ。



▲令和5年度 同事業「活動のまとめ」の様子
令和6年3月25日(月)実施

弘南鉄道株式会社代表取締役 成田敏氏(後列左から2人目)と中田正志業務部長(前列左から2人目)をお招きし、活動の成果目録を贈呈した。本校からは代表生徒6名と小野淳美校長(当時)が参加した。



超お得! 弘南鉄道車内広告
掲出希望社募集!

特別企画「走る広告」～弘南地域魅力発信列車の運行～
主催/制作：青森県立黒石高等学校 情報デザイン科
協力：弘南鉄道株式会社、青森県中南地域県民局地域連携部、黒石商工会議所

広告の種類 次の①～③

①中吊り広告
1口 ¥10,000 29日間掲出料
縦：364mm 横：515mm

②ドア横広告
1口 ¥10,000 29日間掲出料
縦：364mm 横：515mm

③棚上広告
1口 ¥7,000 29日間掲出料
縦：279mm 横：950mm

7/31 申込締切

広告内容 駅社販商品やサービスに関する有益な情報をもとめ、弘南鉄道乗客への関心を呼び起こすクリエイティブ・制作する広告を募集します。

お申し込み：別途 FAX 用紙に必要事項を記入の上、お申し込みください。
お問合せ先：青森県立黒石高等学校 情報デザイン科(受付/八島)
Tel 0172-52-4321 FAX 0172-52-2915 Mail joudo-kur.z@aan.ed.jp

▲左図表／本事業の企画フロー図

右図版／昨年度の成果による事業広報用ポスター

2 活動の様子

(1) 黒石商工会議所への事業者募集依頼(令和6年5月20日)



黒石産業会館に黒石商工会議所 新岡常雄会頭を訪ね、代表生徒から、「この活動で、沿線地域が豊か
で元気になるように願っている」
と約 900 件にのぼる商議所会員へ
の情報周知を依頼した。(写真左)

それを受けて7月中旬、申込事
業者の集計作業と詳細情報の取り
まとめを行なった。当初目標とし
た24事業者の参加依頼を受けるこ
とができた。(写真右)

(2) 地域プレーヤーによる特別講義と特別実習、特別授業「広告制作演習」(9月集中授業)



地域のデザイン分野において活躍される方々のお力をお借りして、広告表現についての学習を深化させることが当該特別講義及び実習の目的である。講師派遣に係るコーディネートは中南地域県民局にお願いし、今回、以下の事業を展開させていただいた。

写真上段左／地域プレーヤーによる特別講義「地域の産業とデザインの関わり」

講師：小野大輔氏（青森県産業技術センター 工業総合研究所 総括研究管理員）

写真上段中／地域プレーヤーによる特別実習「スマートフォンによる撮影のノウハウ」

講師：西川孝治氏（スタジオ2グラム・主宰）

上から順に、9月3日、9月5日実施



左記のことは別に本科では毎年、県による特別非常勤制度を活用させていただいている。今回は写真の活用及びディレクションに焦点をあてた授業を連動・実施した。(上段右、下段2枚写真) 特別授業「デザイナーにとって“写真”とは？」

講師：川村将久氏（デザイナー） 9月11日～13日実施

(3) 事業者との打合せ、ヒアリングの実施(令和6年10月10日～28日)



上段写真左／名刺交換風景～12ある担当チームはそれぞれの名刺を作成・準備し、今後の連絡の取り方等を確認した。
上段写真中／依頼事業者との打合せ風景～持参していただいた事業者の資料をもとに、デザイン要件を確認した。
上段写真右／依頼事業者との打合せ風景～過年度制作の広告を紹介しながら、希望するデザインの傾向をリサーチした。

(4) 企画書の作成(令和6年11月中旬まで)



上段写真左／りんご販売事業者を扱った企画書例～ヒアリングから得られたキーワードから広告3案を提案している。
上段写真右／アルミ製品修理事業を扱った企画書例～制作のコンセプトと方向性を明確に文章化し、表現している。

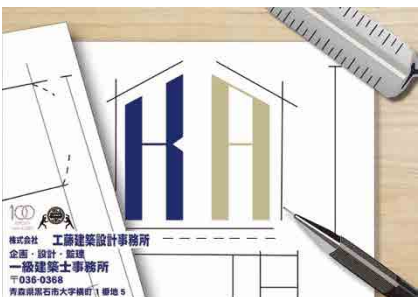
(5) 広告の完成と掲出（前半：令和6年1月31日～、後半：同年3月1日～30日まで掲出）



上記写真は掲出状況を示すものであり、質的な高さが十分感じられる広告内容となった。当初、実際の事業者とのやり取りに気恥ずかしさを感じていた生徒も、その後の確認作業等を通じて信頼関係の深まりを感じているようであった。そのこと自体が生徒の成長を表しているが、活動の振り返りでは、ヒアリングの際の傾く行為の重要性や内容確認の際には「いついつまでに」という期限を明示すること等、ビジネスにおける基本を十分に学ぶ機会となっている。

3 成果物（一部作品の紹介）

棚上広告（950mm×278mm）※横長の広告
中吊り広告、ドア横広告（515mm×364mm）



●紙面の都合上、本資料に作品を掲載していない企業及び団体一覧（敬称略）

有限会社小野商会／三栄急送株式会社／株式会社大和コンサルタント／Orbray 株式会社／黒石つゆやきそば伝紹介
長内サッシ工業(株)／伊原塗装／県子ども家庭部若者定着還流促進課

※ご協力、ありがとうございました。

VIII

令和6年度 官学連携企画「ふるさとを、表す。」事業 (連携団体：黒石市を中心とした、6市町村自治体の関連部署)

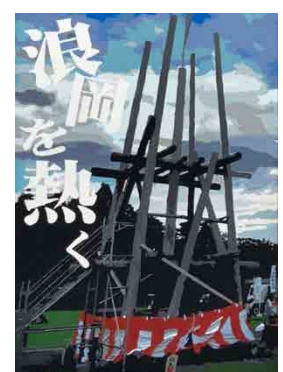
1 概 要

教育現場において「ふるさと」というキーワードをよく耳にする。令和6年8月に行われた「県総合教育会議」においても「ふるさと育てる教育を」が明言された。その背景には出生率の低下や若年層の都市部への流出などが挙げられるのだろうが、今や地方自治体の存続すら囁かれる時代でもある。

そこで、地域理解の観点から自らの住まうまちに視線を向けたデザイン課題に取り組ませたいと考え、1年生後半課題は自らの「ふるさと」をテーマとする実技演習とした。下欄に示す本科在籍生徒の出身6自治体関連部署に、主として地域PRに資する写真素材の提供を依頼したところ、快く応じていただいた。作品の成果披露は黒石で実施の科展での展示、加えて前段Ⅶで紹介した「弘南鉄道車両内展示」とし、本科が目指す情報資源の価値の発掘と、その有効活用を実践する機会とした。



2 実際の完成作品例(右6図版)と展示風景



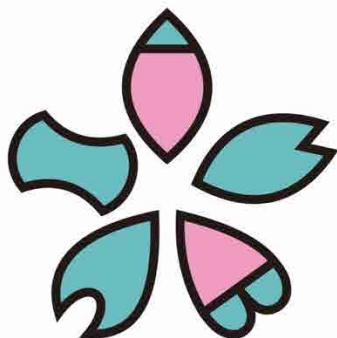
【素材提供】 黒石市商工観光部観光課／弘前市観光部観光課
平川市経済部商工観光課／田舎館村企画観光課
青森市浪岡振興部地域づくり振興課／藤崎町経営戦略課

提供していただいた各地域の写真素材から、生徒はその情景に相応しいキャッチコピーを導き出して描画する基礎学習として取り組んだ。成果披露としての弘南鉄道車両内展示事例に見られるように、「黒石に寄され」と祭りを主催する「黒石商工会議所広告」、「弘前の景色は広い」と「ドローンスクール生徒募集広告」の組み合わせ等、他学年との作品設定が意外な面白さ生み出した。自らの地域理解と同時に他者に訴えかける企画として昇華しつつあると感じている。

A 「青森みちのく銀行労働組合シンボルマーク・ロゴタイプの制作」

（依頼団体：青森みちのく銀行職員組合）※以下の2作品は採用作品である。

新青森みちのく銀行の組合シンボルマーク提案書



制作者／則竹 亨
青森県立芸術高等学校情報デザインセンター
令和6年7月16日

青森みちのく銀行労働組合ロゴタイプ

A1ー新バージョン



B1ー新バージョン



銀行職員組合

銀行職員組合

銀行職員組合

今年度2学年前期のデザイン授業では、ここに示すA、B2団体の依頼事業を教材として、デザインに関する考え方の深化、デザイン技術の向上を図ることとした。基礎的な学習の中に依頼者の要望を汲み取りながら作品制作に取り組み、さらには「採用(活用)される」という現実的なデザインの世界の中で自らのアイデアを表明する貴重な時間となった。依頼団体に共通していることは「地域と共にある」という意識のあり方であり、各団体の社会的使命を視覚化する作業でもあった。

B 「弘前消防エンブレム・被服文字、車両文字デザインの制作」

（依頼団体：弘前地区消防事務組合）※以下の2作品は参考作品（今後、選考審査の上、実装される予定）

弘前地区消防事務組合エンブレム・活動服・消防車両デザイン提案書



弘前地区消防事務組合エンブレム・活動服・消防車両デザイン提案書



C 「第33回黒石りんご祭りポスター制作」と「イメージキャラクター 宮美あかね の開発」

（関連部署：商工課商工観光部）

今夏、黒石市より2種類のデザイン制作の依頼があった。一つは「黒石りんご祭り」の、もう一つは次項Dで示す「市制施行70周年記念式典」のイベントポスターである。制作は2年生有志生徒で行うこととし、その取り組みの中から別に示す2作品が採用された。特に毎年行われる地域の象徴的なイベントである「黒石りんご祭り」については、毎年の告知ポスターにその都度悩むことになる。そこで今回提案のイメージキャラクターを固定化し、今後のビジュアル展開を企画していけないかという提案に至った。ネーミングは【宮美あかね】。少し田舎訛りのある快活な農業女子をイメージし、今般制作の初代を基本としてそのデザインは後輩に託しながら市と連携し、持続可能な広報展開を実践していきたい。





左上写真／初校作品について商工課担当職員と意見交換を行う様子。既存のキャラクターとの比較検討や色彩調整など様々な角度から要望が出された。
中央写真／「宮美あかね」等身大パネル左2段目／当該担当部署では、祭り完成ポスターからアクリルスタンドに発展させ、多様な活用に取り組み始めた。
左マーク／ポスター制作過程の中で市制施行70周年記念シンボルマークが考案された。

D 「黒石市制施行70周年記念式典ポスターの制作」(関連部署：企画財政部企画課) ※作品紹介のみ ▼



E 青森県近代文学館企画展「あおり文学食堂」ポスターの制作(連携団体：青森県近代文学館)

青森県近代文学館が例年開催している企画展示のポスターの制作を行った。今年度は情報デザイン科有志2学年2名が共同制作の形で担当。

同館では特に若年層への読書愛を育むため、イラストレーションを用いた表現により展示会に親しみを持ってもらいたいと考えており、これまでも本校情報デザイン科にポスター制作を依頼してきた。

【作品について】

同館からの企画展示のポスターデザインの依頼は今年度で3年目となる。昨年度は食と文学をテーマとした「あおり文学食堂」。

今年度は青森の校歌と文学の関係性にフォーカスし作家などを紹介するテーマのもと開催された「あおりの校歌」のポスターをそれぞれ制作。



◀ 「青森文学食堂」ポスター(令和5年度) 「あおりの校歌」ポスター(令和6年度) ▶

第3回青森県立黒石高等学校情報デザイン科展 「夢幻飛行～更なる飛躍～」

令和6年12月14日(土)～21日(土)／黒石市役所のまちセンターイベントホール、他

1 概要

3年間の学びの集大成として「第3回情報デザイン科展」を企画・開催した。今回展は10月に開設したばかりの黒石市役所「わのまちセンター」イベントホールを主会場とし、会期を8日間に延ばしての地元開催とした。約200点余りの出品作品は広い会場を埋め尽くし、会期中500名のご来場をいただいた。

このほか、本展では会場近隣にある名勝「金平成園」での併催展示や本展来場者が地元協力店で商品を購入、飲食を行う際にサービスを受けられるシステム「わのまち創出カード」事業を展開した。これらの取り組みは、黒石開催における本展のあり方を考える道標としたい。アンケートの抜粋を後掲するが、ここではその作品展示の全景を紹介する。



第3回展
ポスター ▶



①



②



③



④

- ① 1学年展示 「ふるさとを、表す。」展示風景
- ② 2学年展示 「歴史探訪～古（いにしえ）の技を描写する～」(金平成園 併催展示 12/14, 15)
- ③ 2学年展示 令和6年度「産学官連携による地域デザイン」～弘南鉄道車両広告をつくる～
- ④ 2学年展示 「青森フォントの考案」



- ⑤ 3 学年展示 課題研究「オリンパス黒石市立図書館」班 展示風景
- ⑥ 2 学年展示 新青森みちのく銀行組合シンボルマーク
弘前地区消防事業組合エンブレム・活動服・消防車両デザイン提案書
展示風景
- ⑦ 3 学年展示 選択Ⅱ「メディアデザイン」展示風景
- ⑧ 3 学年展示 課題研究「日本ハルマ株式会社」班 展示風景
- ⑨ 3 学年展示 選択Ⅱ「ブランディング」展示風景
- ⑩ 3 学年展示 課題研究「1 億円プロジェクト」班 展示風景

今回借用の新施設は「賑わいの創出」をコンセプトの一つとしている。本科科展の開催も同じ方向性を共有し、開催にあたって近隣施設や地域産業との連携は今後も積極的に継続していきたい。黒石は「マッコ」文化や通称「まちなか博物館」と呼ばれるような他地域にはない独特の個性を持っている。今回の「わのまち創出カード」企画は市ノ町、内町、前町の三ヶ所を基点とした三角形から出発した企画であるが、そのことを原点として来年度もさらに「わ」を広げていきたい。今回ご協力いただいた関係各位には改めて感謝申し上げます。



「第3回情報デザイン科展」アンケートより ※一部抜粋

- 絵画や立体作品だけでなく、黒石高校 100 周年のデザインや企業ロゴのプレゼン等、かなり本格的で驚きました。この学びはきっと将来の職業にも役立つことと思います。生徒たちは良い学びをしているということを知ることができました。(40代・男性)
- 以前ヒロロでの学科紹介で初めて見てから何度か拝見しておりました。地元企業とのコラボなどが充実しているなど思って楽しく見ることができました。こういう試みのおかげで黒石だけではなく地元全体が活性化していってくれると嬉しいと思いました。(女性)
- 100 周年を迎える黒石高校の新しい時代の風を感じられました。県内企業との連携取り組みや地域行政との連携、課題研究における企画考案など、「地域の高等学校」としての社会教育カリキュラムが素晴らしいと思います。母校の目覚ましい発展を今後も楽しみにしています。(20代・男性)
- 市役所に用事があって来たのですが、このような展示があると今後の楽しみが増えました。知り合いなどにも教えたいと思います。楽しかったです。中学生の娘と来たのですが、高校選びの参考になりました。(40代・女性)
- デザインを学びながら同時に自分たちの住む地域の事を知り、企業への提案などの貢献に役立つ行いをしていることは素晴らしいと思います。(60代・男性)
- 1、2、3 年と段階を踏んだカリキュラムのもとに、子ども達が力を身につけていく過程がよく分かりました。展示の仕方も良いと思います。以前に比べて子ども達は小さい頃から PC を使う環境が整う中で、表現の仕方や技術も変化していると思われますが、次はどんなものが出てくるのかと思うととても楽しみです。そんな中でも 1 年生のポスターカラーを使った手作業の作品は、毎年展示されていて、こういう基本的な作業はないがしろにはならない作業であると思いました。(60代・男性)
- 情報デザイン科で、どのようなことに取り組んでいるのかよく知ることができました。私は将来イラストを描く仕事に就きたいと思っているので、皆さんの作品がとても参考になりました。(10代・女性)
- どの作品も素敵なデザインでした。作品と作品の間も適度なスペースで、見やすい展示レイアウトに感じました。子供が入学を希望しているので、ぜひ入学してデザインについて学んでもらいたいと思える展示会でした。(40代・男性)
- 今年は地元での開催で、とても良いと思いました。昨年 1 年生だった方の作品が金平成園に展示されていて、とても場所とマッチして作品がより素晴らしく見えました。見に来て良かったです。(30代・女性)
- 社会人と対話をしながら、その意向を汲み取り、デザインを制作するのは難しそうですが充実した活動だろうと思いました。とても楽しそうです。地域に密着し、尚且つ職業観も育つと感じました。応援しています。(40代・女性)

※アンケートのご協力、ありがとうございました。

●第3回生から第5回生までの集合写真(2024年11月22日撮影)

